

I. 導入

おはようございます。先週、エフェソで多くの人々が福音を聞き、パウロをとおして神がなされた奇跡を見て、罪を悔い改めイエスに従う選択をしたと学びました。使徒19:19にはこうありました。「また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を見積もってみると、銀貨五万枚にもなった。」秘密の魔術について書かれた巻物は、銀貨五万枚の価値がありましたが、イエスを信じた人々はそれを価値のないものと見なしました。このように公に悔い改めを表したことは、多くの人々に影響を与えたでしょう。悔い改めを促しただけでなく、この種の巻物を売買する商人にとっては売上が減るできごとだったかもしれません。

神の目に忌まわしいとされることから悔い改めたことを公に示すと、教会は急速に成長します。同時に、福音に対する抵抗も強まります。エフェソでもそのようなことが起こりました。使徒19:23-40を読みましょう。

II. 聖書朗読

19:23 そのころ、この道のことでただならぬ騒動が起こった。19:24 そのいきさつは次のとおりである。デメトリオという銀細工師が、アルテミスの神殿の模型を銀で造り、職人たちにかなり利益を得させていた。19:25 彼は、この職人たちや同じような仕事をしている者たちを集めて言った。「諸君、御承知のように、この仕事のお陰で、我々はもうけているのだが、19:26 諸君が見聞きしているとおりに、あのパウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。19:27 これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまおうそれがあるばかりでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神の御威光さえも失われてしまうだろう。」

19:28 これを聞いた人々はひどく腹を立て、「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と叫びだした。19:29 そして、町中が混乱してしまった。彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリストアルコを捕らえ、一団となって野外劇場になだれ込んだ。19:30 パウロは群衆の中へ入っていかうとしたが、弟子たちはそうさせなかった。19:31 他方、パウロの友人でアジア州の祭儀をつかさどる高官たちも、パウロに使いをやって、劇場に入らないように頼んだ。19:32 さて、群衆はあれやこれやとわめき立てた。集会は混乱するだけで、大多数の者は何のために集まったのかさえ分からなかった。19:33 そのとき、ユダヤ人が前へ押し出したアレクサンドロという男に、群衆の中のある者たちが話すように促したので、彼は手で制し、群衆に向かって弁明しようとした。19:34 しかし、彼がユダヤ人であると知った群衆は一斉に、「エフェソ人のアルテミスは偉い方」と二時間ほど

も叫び続けた。

19:35 そこで、町の書記官が群衆をなだめて言った。「エフェソの諸君、エフェソの町が、偉大なアルテミスの神殿と天から降って来た御神体との守り役であることを、知らない者はないのだ。19:36 これを否定することはできないのだから、静かにしなさい。決して無謀なことをしてはならない。19:37 諸君がここへ連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。19:38 デメトリオと仲間の職人が、だれかを訴え出たいのなら、決められた日に法廷は開かれるし、地方総督もいることだから、相手を訴え出なさい。19:39 それ以外のことで更に要求があるなら、正式な会議で解決してもらうべきである。19:40 本日のこの事態に関して、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会のことで、何一つ弁解する理由はないからだ。」こう言って、書記官は集会を解散させた。

III. 教え

使徒19:23「そのころ、この道のことでただならぬ騒動が起こった。」初代教会の時代には、教会はしばしば「この道」と呼ばれました。これはとても説得力のある呼称です。救いの道やキリストの道を連想させるからです。同時に、この世にあふれるさまざまな偽りの道と信仰の道とを対照的に示す呼び名だからです。今の時代でもこの名前を使う教会がたくさんあります。アメリカ、アラバマ州にあるザ・ウェイ・コミュニティ・チャーチがその一例です。

エフェソの多くの人々はこの道に賛同しましたが、反対も起こりました。反対派の中心人物はデメトリオという名の人でした。**使徒19:24**は、彼についてこう伝えています。「そのいきさつは次のとおりである。デメトリオという銀細工師が、アルテミスの神殿の模型を銀で造り、職人たちにかなり利益を得させていた。」デメトリオはアルテミスの神殿の模型を作って職人たちに「かなり利益を」得させていたとあります。

アルテミスは、ローマ神話ではディアナと呼ばれています。元はギリシャ神話の狩りの女神であり、後に豊穰と多産の女神としてとくにエフェソで知られるようになりました。現代、その神殿はまったく残っていません。これはその場所の写真です。今は廃墟となっていますが、かつてはここに壮麗な神殿があったのです。この神殿は古代の世界七不思議のひとつに数えられたほどです。

これは、1/25の縮尺で造られたアルテミス神殿の模型で、当時の姿を表しています。毎年5月には、この神殿を中心とした一ヶ月間のお祭りが催されました。このお祭りは広く知れ渡っており、祭りの時期には多くの人々が遠方から神殿を訪れました。当然、エフェソの町にとって大きな経済効果がありました。さらに、この神殿は宗教の中心地としてだけでなく、地域の主要銀行としても機能していました。裕福な人や、政府までもが神殿の銀行に預金をしていました。



この神殿における崇拝の対象は、アルテミス像です。これは天から降ってきたとされています。隕石でできていると言う人もあります。実際に神殿に祀られていた像は残っていませんが、エフェソのアルテミス像はたいていこの写真のようなものであったと考えられます。エフェソの住民は、神殿と女神を珍重していました。使徒19:34bには、騒動が起こった際の様子が記されています。「群衆は一斉に、『エフェソ人のアルテミスは偉い方』と二時間ほども叫び続けた。」

デメトリオと職人たちはアルテミス像と神殿の模型を売って生計を立てていました。祭りに来た人たちが小さい女神像をおみやげとして持って帰るためです。しかし、パウロの教えによって彼らの商売に影響が出ました。そこでデメトリオは同業者たちを集めてこう言いました。(使徒19:25b-26)「諸君、御承知のように、この仕事のお陰で、我々はもうけているのだが、19:26 諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、たぶらかしている。」



デメトリオは続けて、パウロの教えによってアルテミス神殿はないがしろにされ、「女神の御威光さえも失われてしまうだろう」と言いました。デメトリオはパウロと教会の活動を止めさせたいと思っており、町の人々を味方につける方法を知っていました。デメトリオの主張は要するに、「パウロは『手で造ったものなどは神ではない』と言って」いるので、それをやめさせなければ、町の人々が職も町の誇りも女神も失ってしまうだろうというものです。

これについて少し考えてみましょう。聖書は、まことの神が創造主なる神であり、天地をお造りになったと教えます。一方、偶像礼拝は、人が自分の神を作り出せると教えます。けれども、人の手によって造られたものが神と呼ばれるなら、人間は神より偉大な存在ということになります。つまり、偶像礼拝の根本には、ごう慢と自己崇拝があるのです。聖書は偶像礼拝を愚かな罪と強く非難します。

イザヤ書44:9-20に、このような教えがあります。

44:9 偶像を形づくる者は皆、無力で／彼らが慕うものも役に立たない。彼ら自身が証人だ。見ることも、知ることもなく、恥を受ける。44:10 無力な神を造り／役に立たない偶像を鋳る者はすべて44:11 その仲間と共に恥を受ける。職人も皆、人間にすぎず／皆集まって立ち、恐れ、恥を受ける。44:12 鉄工は金槌と炭火を使って仕事をする。槌でたたいて形を造り、強い腕を振るって働くが／飢えれば力も減り、水を飲まなければ疲れる。44:13 木工は寸法を計り、石筆で図を描き／のみで削り、コンパスで図を描き／人の形に似せ、人間の美しさに似せて作り／神殿に置く。44:14 彼は林の中で力を尽くし／樅を切り、柏や檜の木を選び／また、樅の木を植え、雨が育てるのを待つ。44:15 木は薪になるもの。人はその一部を取って体を温め／一部を燃やしてパンを焼き／その木で神を造ってそれにひれ伏し／木像に仕立ててそれを拜むのか。44:16 また、木材の半分を燃やして火にし／肉を食べようとしてその半分の上であぶり／食べ飽きて体が温まると／「ああ、温かい、炎が見える」などと言う。44:17 残りの木で神を、自分のための偶像を造り／ひれ

伏して拝み、祈って言う。「お救いください、あなたはわたしの神」と。44:18 彼らは悟ることもなく、理解することもない。目はふさがれていて見えず／心もふさがれていて、目覚めることはない。44:19 反省することもなく、知識も英知もなく／「わたしは半分を燃やして火にし／その炭火でパンを焼き、肉をあぶって食べた。残りの木で忌むべきものを造ったり／木の切れ端を拝んだりできようか」とは言わない。44:20 彼は灰を食らい／惑わされた心は、その道を誤らせる。彼は自分の魂を救うことができず／「わたしの右の手にあるのは偽りではないか」とすら言わない。

偶像礼拝の問題はどこにあるのでしょうか。それは、心の中です。「惑わされた心」が偶像を崇拝します。お寺や神社で像を拝む人は、優しく穏やかな人かもしれません。社会の基準では良い人とされる人が多いでしょう。しかし、その心は惑わされているのです。その人たちが拝んでいるのは人の手によってうまく作り上げられた偽りです。仏像や神像の彫刻師には、正しいことをしていると信じてそうしている人もいます。エフェソのデメトリオのように、ただ生計を立てるためにそうしている人もいます。どちらにせよ、人の手によって造られたものを拝むなら、神ではなく人を拝んでいることになります。

エフェソでは、偶像の製造販売は大規模な産業でした。それは日本でも同じです。他にもそういう国があります。ここまでは、偽りの神の像を模した偶像について話してきました。仏像や神像に向かってお辞儀をして拝むのは、もっともわかりやすい偶像礼拝の形です。ただし、それだけが偶像礼拝ではありません。金銭、権力、性、名誉も、偶像になり得ます。哲学や生き方が偶像になる場合もあります。人を称賛しすぎると、その相手が偶像になり得ます。教会の働きでさえ、神を礼拝することより教会の働きを重視するなら偶像になってしまうのです。

アメリカ、ノースカロライナ州にあるサミット教会の牧師で、著書も出しているJ.D. グリアー師はこう言います。「大切にしている何かに自分の行動も感情もコントロールされるなら、それはもはや偶像になってしまっている。」 私たちは皆、自らを吟味する必要があります。私たちの行動や感情をコントロールしているものは何でしょう。心の中で神を第一とし、人生のどんな局面でもイエスについていくことを求めるなら、神を礼拝しています。けれども、私たちが他のものにコントロールされているなら、それが何であれ、偶像礼拝に陥ってしまっているのです。

銀細工師デメトリオは、アルテミス神殿の模型を作って商売し、その商売を守るために率先して騒動を起こしました。そんな彼をさげすんでしまいがちですが、実際には私たちもデメトリオと大して変わりません。悪魔とその手下は私たちを欺こうと頑張ります。そのような企てがなくても、私たちは墮落した世の中に生きる墮落した人間です。初期のプロテスタント指導者であったジャン・カルヴァンの言ったように、「人は誰もが母の胎より出た時から偶像を作り上げる匠」なのです。

私たちは折に触れて自身を省み、偶像礼拝から心を守らなければなりません。とは言え、偶像礼拝にたいして自分自身では気づきません。惑わされた心には自身の誤りが見えないのです。私たちの心を誰よりもはっきりと見ておられるお方の助けが必要です。ダビデは詩篇139:23-24でお手本を示してくれました。ダビデはこのように祈りました。「139:23 神よ、わたし

を究め／わたしの心を知ってください。わたしを試し、悩みを知ってください。139:24 御覧ください／わたしの内に迷いの道があるかどうかを。どうか、わたしを／とこしえの道に導いてください。」主の助けを得て、私たちも自分の中にある偶像礼拝に気づき、偽りと欺きであると認めることができるように祈ります。そして、主が私たちに勇気と知恵を与えてくださり、すべての偽りの神と決別できるよう祈ります。

今日の聖書箇所に戻りましょう。使徒19:28-29には、デメトリオがパウロに対する非難を述べ終えた後、何が起こったか記されています。「19:28 これを聞いた人々はひどく腹を立て、『エフェソ人のアルテミスは偉い方』と叫びだした。19:29 そして、町中が混乱してしまった。彼らは、パウロの同行者であるマケドニア人ガイオとアリストルコを捕らえ、一団となって野外劇場になだれ込んだ。」

人々はパウロの居場所を知らなかったようで、パウロとともに福音を広める働きをしている者たちを捕えました。群衆の叫び声を聞いて、さらに多くの人々が押し寄せ、町中が混乱しました。一行は野外劇場へとなだれ込みましたが、そこは娯楽場であると同時に裁判の場でもありました。約2万5千人収容できる劇場ですから、相当な人数の人がこの騒動に関わったと想像できます。



使徒19:30「パウロは群衆の中へ入っていきこうとしたが、弟子たちはそうさせなかった。」パウロはこの状況を見て、大群衆にイエスのことを語る機会と捉えたようです。しかし、弟子たちはパウロの命が危ないと恐れ、騒動の渦中に出て行かせませんでした。劇場では混乱が続き、人々はあれこれ叫びました。多くの人は何が起こっているのかもわからずにそこにいました。そして、どういうわけかユダヤ人によって前に押し出されたアレクサンドロという男が群衆に話そうとしました。使徒19:34にはこうあります。「しかし、彼がユダヤ人であると知った群衆は一斉に、『エフェソ人のアルテミスは偉い方』と二時間ほども叫び続けた。」

大群衆が宗教と町の誇りを守ろうと興奮状態で叫びました。劇場の性質から、その音は何キロも離れた場所からも聞こえたでしょう。アルテミスは当時それほどまでに尊ばれましたが、今ではアルテミスを崇拝する人はいません。エフェソでのアルテミス崇拝は1,500年以上も続きました。しかし、紀元268年に、神殿は破壊され、女神像も忘れ去られました。偶像は千年以上も健在である場合もありますが、いずれは倒され、忘れられます。

創造主なる神は、天地をお造りになり、時間さえもお造りになったお方です。神は時空を超越したお方です。このお方は始まりであり終わり、アルファでありオメガです。主イエスについてコロサイ1:16はこう語ります。「天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。」エフェソのアルテミスは過去のものとなりましたが、イエスは永遠です。そして、今日も世界中の多くの人々がこのお方を礼拝しています。

エフェソでのパウロの伝道は大成功で、町の政治経済の動向まで変えようとしていまし

た。人々はイエスのもとの来て、偶像や罪から悔い改めました。ノンクリスチャン社会は、福音を信じる信徒の数が少数である限り、クリスチャン伝道者に対して寛容です。しかし、多くの人がクリスチャンになると、過激な反発を招くことがあります。

数年前のある夜、私は新今宮駅の南側にある西成市民館でメッセージをしたことがあります。この地域はホームレスの方が多い地域で、暴力団関係者が営業する不法な商売もあります。その夜、少し早めに到着したので、近辺を歩いていました。すると突然、刺青を入れた強面の男たちが私を囲んで「ここで何しとんねん」と絡んできました。自分たちの商売の競合相手だとでも思ったのでしょうか。イエスの愛について話しに来たのだと言うと放してくれましたが、ある意味残念なことです。暴力団関係者にとって、福音宣教は自分たちの利益を脅かすものとは思えなかったのでしょうか。



私たちの福音のメッセージが功を成し、暴力団の商売だけでなく偶像や罪をもてはやす産業がなくなる日が来るよう祈りましょう。大阪の教会がイエスの福音宣教に本当の意味で効力を発揮すれば、神の喜ばれない仕事に従事している人々は教会に対抗するでしょう。けれども最終的には、神の愛がすべてに勝つのです。

IV. 結び

最後に、イザヤ書のみことばをもうひとつお読みします。イザヤ書44:6「イスラエルの王である主／イスラエルを贖う万軍の主は、こう言われる。わたしは初めであり、終わりである。わたしをおいて神はない。」

V. 祈り